

シグマ研究委員会核データ専門部会  
ガンマ線生成核データ W.G. 昭和 56 年度第 5 回会合議事録

日 時 昭和 56 年 10 月 9 日 (金) 13:30 ~ 17:30  
場 所 原研本部 第 6 会議室  
出席者 浅見 (哲), 水本, 五十嵐 (原研), 川合, 吉田 (NAIG),  
平本 (日立), 河北 (MAPI), 山越 (船舶研), 井頭,  
播磨, 北沢 (東工大)  
オブザーバー 飯島 (NAIG)

配布資料

- 1) ガンマ線の普通コンクリート中の減衰図 (播磨)
- 2) ENDF/B-IV Photon Data の検討 (井頭)
- 3) CASTHY ガンマ線スペクトルの改良 (水本)
- 4) ガンマ線生成および粒子放出計算プログラム (水本)

一般報告

- 1) 1982 年 2 月に原子力シンポジウムを開催するが, その中に核燃料サイクルにおける核データの話を含める。内容は JAERI-memo に与えられている。(五十嵐)
- 2) 原研下部組織として財団法人原子力データ・センターが出来る。(五十嵐)
- 3) プラズマ, 核融合の部分が原子力学会および物理学会から分離し, 新たに学会をつくる動きがある。(五十嵐)
- 4) NEACRP に出席した弘田氏によると, ヨーロッパでは JENDL を使用したいという要望が出ている。(五十嵐)

## 作業経過報告

- 1) 原子炉，核融合炉のようにガンマ線と中性子が混在している場では，核設計計算に 10 MeV 以上のガンマ線を含める必要はない。（播磨，河北）
- 2) GNASH の入力 Te<sub>j</sub> を検討している。（山越）
- 3) W について resonance parameter を収集したり，NESTOR の中味を plot している。（浅見）
- 4) ガンマ線生成断面積計算プログラム GNASH，HAUSER 5，STAPRE，TNG，GROGI，UHL の概略を説明。（水本）
- 5) 資料(2)に従って ENDF/B-IV の中の Fe のガンマ線データを説明。（井頭）

## 今後の作業の進め方

- 1) 今迄の作業の進捗状況は良いとは云えない。原因の一つは，KeV 中性子領域のガンマ線データが極めて不足していることである。従って，理論計算プログラムの完備が早急に望まれる。（全員）
- 2) ガンマ線生成断面積計算プログラムを，サブルーチン毎に W.G. のメンバーが担当して，プログラムの勉強会を持ったらどうか。（飯島）
- 3) 計算プログラム完備するための作業をどのように進めるか検討するために，浅見（哲）氏が次回までに GNASH のフロー・チャートを作ってくる。
- 4) 次回は 11/16 日に行なう。11/26-27 の核データ研究会におけるガンマ線核データの講演の内容を水本，川合，井頭に話してもらおう。計算プログラムを完備する作業を今後どのように進めるか検討。